

第3回 新市立病院設計・施工事業者選考委員会 議事録

- 1 日 時 令和3年3月12日（金）13:00～19:30
- 2 場 所 ヴェルクよこすか 6階 第1会議室
- 3 出席委員 土屋委員長、岩堀委員、高島委員、藤田委員、田中委員、石渡委員、山岸委員
- 4 事務局 健康部市立病院課新市立病院建設担当
上阪担当課長、鷺阪主査、飯嶋主査、山田主査、吉田主任、原口主任、
大塚主任、藤岡主任
日建設計コンストラクション・マネジメント(株) 3名
- 5 傍聴者 0名（非公開）
- 6 議事内容
 - （事務局）本日、委員7名全員出席されているため、新市立病院設計・施工事業者選考委員会条例第5条第2項に規定する開催条件を満たしている。
 - （1） 前回議事録の確認
 - （委員長）事前配布の前回議事録に質問・意見はあるか。
 - （委員一同）異議なし。
 - （委員長）前回議事録を承認する。
 - （2） 事業者によるプレゼンテーション及びヒアリング
 - （事務局）これより各事業者によるプレゼンテーション及びヒアリングを開始する。
前回の委員会において、評価項目BについてはB者が2.5カ月短縮で2点、その他の者が4カ月短縮で4点、評価項目Dについては、全事業者が19億円超で4点加点という結果であったので、改めて確認させていただく。
 - 【A者】建設会社単独（4名）、自己紹介及び技術提案①～④の内容説明。
以下ヒアリングにおける質疑応答。
 - （委員長）建設工事を進めるにあたり、設計意図等を各所に説明する機会があると思うが、病院関係者、近隣の住民（市民）、市関係者それぞれに対しての説明で重点的に伝えるべき情報はそれぞれどのような情報だと考えるか。
（共通質問、以下各者同じ）
 - （A者）関係者への丁寧な説明に努める。また、近隣住民に対する説明も丁寧に行い施工中でも臨機応変に対応していく。
 - （委員長）これより各委員からの質疑に移る。
 - （委員）実施設計開始時にまず基本設計内容の3次元モデルの活用はどのような効

果があるか。

- (A 者) 基本設計を早急に三次元化し各種打合せに積極的に活用したい。
- (委員) 施工段階の三次元化とは。
- (A 者) 設計図面ではなく三次元化した実物モデルである。
- (委員) 工期短縮について、2月の引越し時期の前倒しは良いと考えているが、2月は気候的に問題ないのか。
- (A 者) あくまでも最速の提案をした。
- (委員) 最速ではなくて適切なのか聞いている。
- (A 者) 捉え方は様々であるが、2.5カ月の移転実績があるため、問題ないと考えている。
- (委員) 発言したことは実行すること。竣工後の移転引越しの支援は可能なのか。
- (A 者) 引越し業者と共に、経路の確認等を含めサポートする。
- (委員) 病院建設を行う上で重要なポイントは何と考えるか。
- (A 者) 関連部門が多く適切な対応が肝要であるとともに設計変更に対するタイムリーな対応が必要である。また、患者目線だけでなくスタッフ目線も重要と考えている。
- (委員) コスト増への対応方法は。
- (A 者) 関係者に見える化し、代替え案を提示しながらコストコントロールを行う。
- (委員) 地下の合理化について「合理化」とはどういうことか。
- (A 者) 外周部の躯体形状を揃える等して施工の合理性を高める。
- (委員) 事前にシミュレーションするのか。
- (A 者) 設計段階でシミュレーションを行う。
- (委員) 免震で0.5カ月短縮の根拠は何か。
- (A 者) 押圧工法の採用で従来のグラウド注入工法に比べ省力化が図れる。
- (委員) 2.5カ月縮減の根拠は何か。
- (A 者) 2列建て逃げ工法の効果が大きいの、デッキ床を採用することで作業員数を減らし省力化が図れる。
- (委員) コストの見える化とは何か。また、グラフ等を用いて(各組織間で)判り易い工夫をするのか。
- (A 者) 委員の意見を取り入れ、グラフ等を用いるなど工夫していきたい。
- (委員) 地下工事の合理化とは。
- (A 者) 設計段階で十分に検討する。
- (委員) 合理化提案をVE提案としていないが、横須賀市にどう還元するのか。
- (A 者) 明らかに減額となる場合に提示する。
- (委員) 低騒音重機での対応とは、周囲に精密機械メーカーがあるが対応方法は。
- (A 者) 工事種別毎に騒音振動を抑制する最適な対応を行う。近隣で実績もある。
- (委員) 市内事業者の活用について具体的な活用方法を示して欲しい。
- (A 者) 提示した工種の他に設備業者も今後加わるため、金額は増える想定である。

- (委員) DB方式のメリットとして、スムーズな情報共有が可能となると想定されるが、具体的に示して欲しい。
- (A 者) 設計段階でプロット図の打合せ精度を上げる。総合図に近い設計対応とする。これらがDBの強みと考えており実績もある。データも設計・施工両サイドで共有する。
- (委員長) 以上でA者のヒアリングを終了する。

【 B 者 】 建設会社と設計事務所のグループ（4名）。

自己紹介及び技術提案①～④の内容説明。

以下ヒアリングにおける質疑応答。

- (委員長) 共通質問。説明を受けた者が理解できたかをどのように確認されたかもお教えてください。
- (B 者) 設計期間中に近隣説明を行い、その際に具体的な施工方法も説明していく。また、施工中においても臨機応変に対応していく。
ホームページを活用することを関係者及び近隣住民に周知する。
- (委員長) これより各委員からの質疑に移る。
- (委員) モデルルームを作るとのことだが、設計段階でプロット図を活用した確認を行わないのか。
- (B 者) 実施設計中にヒアリングを2回行い、早期にプロット図、総合図を作成し施工図を作成していく予定である。
- (委員) 4工区分けを行うとのこと、コンクリートミキサー車・労務確保など同時集中することになると思われるのだが、具体的にはどのように施工していく計画であるのか。
- (B 者) 建物面積から4工区とすることが最適であると判断した。
- (委員) 質問に答えること。
- (B 者) コンクリートは適切に分けて打設する。
- (委員) 設計中のVEとは。
- (B 者) 代替え案やVE案でコストアップを相殺し漏れのない実施設計を行う。
- (委員) 直接基礎は、支持地盤に上下動の影響が顕著である場合でも問題ないのか。
- (B 者) 上下動・液状化の検討も踏まえ提案している。
- (委員) RCST工法で原案のブレースをなくすとのことだが、強度（水平剛性）はあるのか。
- (B 者) 鉄筋も入れるので相応の粘りはあると考える。
- (委員) コスト削減の効果はあるか。
- (B 者) 約10%下がる。
- (委員) 直接基礎をVE提案していないので、採用しない場合、1.5カ月の短縮はどうか。
- (B 者) 採用されない場合はPC化等他の方法で短縮する。
- (委員) 採否に関係なく1.5カ月短縮可能と理解する。工程表の中での中間検査と

あるが何を指すのか。計画通知の場合、不要である。

- (B 者) 自主管理での中間検査という意味である。
- (委員) 交通量調査しているとのことだが、夕刻は調査したのか。
- (B 者) 行っている。
- (委員) 材料に関する市内事業者の活用は、コンクリート以外に検討しているか。
- (B 者) 山留鋼材等を現在検討中である。
- (委員) 機械室レス手術室クリーンコンポ、デュアル空調方式のメンテナンス性に問題はないか。
- (B 者) 室内での改修が可能であるため、メンテナンス性が向上する。また、デュアル空調は術野と周囲の環境性能が向上する。
- (委員) 直接基礎提案の扱いに、1.5 カ月は認めない方向としたい。
- (委員長) 以上でB者のヒアリングを終了する。

【 C 者 】 建設会社単独（4名）、自己紹介及び技術提案①～④の内容説明。

以下ヒアリングにおける質疑応答。

- (委員長) 共通質問。説明を受けた者が理解できたかをどのように確認されたかもお教えてください。
- (C 者) 仮囲いに電子看板を設置し情報提供を行う。また、コンクリート打設等を行う際には近隣住民に対して直接、説明を行うとともにホームページを活用し情報提供を行う。
隣接学校に対しては、直接ヒアリングを実施し車両利用計画を立案した。神社側住宅にも十分配慮する計画である。
- (委員長) これより各委員からの質疑に移る。
- (委員) プロット図の作成時期が工程に記載されていないが、何時頃作成する予定か。
- (C 者) 設計段階で作成する。施工段階では総合図にて最終確認する予定である。
- (委員) フロントロードした後に変わった場合はどう対応するのか。
- (C 者) なるべく変更内容を小さくしたいため採用している。
- (委員) モデルルームは早い時期に作成するのか。また、どこに作成するのか。
- (C 者) 確認事項を施工に反映させたい考えである。うわまち病院の駐車場に作成したい。
- (委員) 契約後の変更管理はどのように行うのか。
- (C 者) フロントロードで費用の大きな項目を確定する。
- (委員) 取扱説明について、対面説明を行うのか。
- (C 者) ビデオ化し、ホームページにて確認して頂くことを考えている。利用方法の動画も準備する。
- (委員) データに基づく付加価値とは何か。蓄積データがあるのか。
- (C 者) 視線トラッキング眼鏡を実業務で利用してもらい新病院で活用したい。
- (委員) これからの設計に活かすということか。
杭の削減についてどう考えているのか。

- (C 者) これからの設計に生かす考えである。
沈下量は 19cm 想定、免震機能の発揮には杭は必須と考える。
- (委員) 杭の引き抜きは検討したか。
- (C 者) 検討した。
- (委員) 鉄骨の施工精度確保による 15 日短縮とは、具体的にどうやるのか。
- (C 者) 鉄骨工事を精査し、短縮できる時間を積み上げた結果である。
- (委員) 工事車両の管理について、現場手前での路上順番待ちは起こらないか。
- (C 者) 運転手のモラル確保、教育の徹底で対応する。
- (委員) BIMでの事前説明とは何か具体的に説明してほしい。
- (C 者) 毎月の工程説明で活用することを想定している。部分的に取り出すことも可能である。
- (委員) 杭と基礎の合理化提案についてVE提案しない理由は何か。
- (C 者) 要求水準に指定がなく参考図扱いであったのでVE提案には当たらないと考えた。コストダウンになれば今後、提案する。
- (委員) 行政手続きの予備期間とは何か。行政手続きが伸びた場合の工期はどうなるのか。
- (C 者) 行政対応の期間に限らず予定どおりの工期短縮で工事を完了させる。
- (委員) 市内活用について金額が多くありがたいが、乙①の内容は十分に検証したのか。
- (C 者) 検証している。
- (委員長) 1点意見させていただく。屋内測位システムは有用な提案であるが、現時点の動線確認は現病院と新病院では環境が異なるため有効なデータが取れない可能性が高いと想定される。
- (委員長) 以上でC者のヒアリングを終了する。

【 D 者 】 建設会社と設計事務所のグループ（4名）。

自己紹介及び技術提案①～④の内容説明。

以下ヒアリングにおける質疑応答。

- (委員長) 共通質問。説明を受けた者が理解できたかをどのように確認されたかもお教えてください。
- (D 者) 仮囲い等にモニターを設置し各種工事情報を掲示する。設計段階での近隣説明に施工チームも参画し、より具体的な説明を行う。ホームページを開設し情報発信に努める。
- (委員) スコープマネジメントとは何か。
- (D 者) 事業成功の目的をいち早く明確化・共用し、参加者全員が同じ目標に向かって進めていくマネジメントとして設定している。
- (委員) スコープマネジメントで抽出した課題の解決方法をどのように考えているのか。
- (D 者) 実施設計段階での要望・変更に対し施工チームでVE/CD提案をストックし活用する。

- (委員) 第3者チェックは外部メンバーなのか、どのように行うのか。
- (D者) 設計・施工チームから独立した品質管理チームによるチェックを行う。
- (委員) 6カ月短縮での2月開院は時期的にいかがなものか。
- (D者) 環境から考えると冬季の移転は問題が多い。病院側の都合に応じて調整していく。スケジュール上は年末年始での開院も可能となる。
- (委員) To Doリストはだれが管理するのか。
- (D者) 事前にお知らせするツールとして利用する予定。関係者で共有する。
- (委員) 情報共有システムのセキュリティは確保されるのか。
- (D者) 確保できる。
- (委員) 漏水センサーはコスト上昇とならないか。漏水後の対処方法は。
- (D者) コスト上昇とはならないよう必要な個所に設ける。漏水が起きた場合には、警報により漏水場所の特定を行い、病院を管理する者がふき取りを行うこととなる。
- (委員) 設計で2カ月短縮することに疑問がある。実績があるのか。
- (D者) 設計期間の短縮が良いこととは考えてないが、同規模病院で実績がある。最初のキックオフヒアリングをいち早く行うことが重要である。テレワークはあくまでも補助であり対面が主である。
- (委員) 開設支援事務局の設置は、契約期間外となるがどう考えているか。
- (D者) 早期の設置を予定。ニーズを確認しながら竣工後の対応も予定している。
- (委員) 車両運行ルートについて、学校間の道路は通行禁止とした方が良いと考えるがいかがか。
- (D者) 登下校時は避けることとし、東側からのアプローチを主体とする。学校とは今後、協議を行う。
- (委員長) 以上でD者のヒアリングを終了する。

【 E 者 】 建設会社と設計事務所のグループ（4名）。

自己紹介及び技術提案①～④の内容説明。

以下ヒアリングにおける質疑応答。

- (委員長) 共通質問。説明を受けた者が理解できたかをどのように確認されたかもお教えてください。
- (E者) 仮囲いに工程表や直近工程を掲示し周知することに加え事前説明を実施する。また、特殊作業がある場合は、事前の周知を徹底する。
- (委員) DBの懸念事項として、追加工事等での増額懸念があるがどう対応するか。
- (E者) ヒアリングで出た要望に対し市に示し協議する。また、統括マネジメント会議で市（発注者）との合意形成を行う。
- (委員) プロット図はいつ頃作成する計画であるのか。
- (E者) 設計段階でのヒアリング前に作成し提示する。
- (委員) モデルルームの設営時期は遅くないか。前倒しできるか。
- (E者) 時期については今後の協議の中で詰めていきたい。

- (委員) 引き渡し後の準備期間が1カ月しかないが問題はないのか。
- (E者) 過去に行った事例があるため、問題ない。
- (委員) 別途工事調整チームはうまく機能するのか。
- (E者) 統括マネジメント会議で情報共有を行い、必要に応じて分科会を開催し、円滑に進めていく。
- (委員) 材料選択はB社が主導するのか。
- (E者) 最新の購買データを活用し設計者と共有する。
- (委員) 構造計算の期間が短縮できるとあるが、準備ができているということか。
- (E者) 現時点でデータ化を既に進めている。
- (委員) 検討量が多くオーバーワーク気味だが問題は無いのか。
- (E者) 工夫して対応する。
- (委員) 騒音振動対策シミュレーションは正しいか。
- (E者) 一定の精度はある。
- (委員) 先行掘削+ α で2回搬出するのか。
- (E者) そのとおりである。
- (委員) 引き渡し後の患者輸送について、現病院への配慮とあるが、コストの負担は誰が行うのか。
- (E者) 現在は提案のみ、コスト負担は協議による。
- (委員) 市内事業者活用において、下請け3業種の提案があるが、さらに具体的な検討を行っているのか。
- (E者) 技術提案書では、大枠として3業種で記載しているが、実際には14社に確認を取っている。
- (委員長) 以上でE者のヒアリングを終了する。

(3) 落札者の特定及び講評

【開札及び総合評価点算出後】

(事務局) 各社の評価点、入札価格及び総合評価点の以下集計結果の説明・報告。

	基礎点	加算点	評価点 (基礎点+評価点)	入札価格/1億	総合評価点	順位
A	70	19.285	89.285	153.36	0.5821	5
B	70	20.714	90.714	143	0.6343	4
C	70	24.285	94.285	139.98	0.6735	3
D	70	27.142	97.142	142.73	0.6805	2
E	70	23.428	93.428	136.68	0.6835	1

(事務局) 総合評価の結果、E者が落札候補者、D者が次点者となるが、E者は低入札価格調査の対象となる。低入札価格調査の結果、調査対象者の入札価格により契約の内容に適合した履行がされないおそれがないと認められた場合はE者が落札者となり、調査対象者の入札価格により契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められた場合はD者が落札者となる

が宜しいか。

(委員 長) 賛成の方は挙手願いたい。

(委員一同) 挙手。

(4) その他

(事務局) 本日の議事録について内容確認のため議事録作成後、各委員あてにメールで送付する。議事録を確認したのち、変更または承認の連絡をいただきたい。

第1回選考委員会で検討いただいた選考基準、第2回選考委員会で検討いただいたVE提案の採否及び本日の選考について、市長への具申文を委員長名で作成させていただくことを了承いただきたい。

これまでの選考委員会における議事録及び審査結果などについて、本市ホームページで公開させていただくことを了承いただきたい。

(委員 長) 具申についての文書作成、ホームページへの情報公開について、事務局案のとおりとしてもよろしいか。

(委員一同) 異議なし。

(委員 長) 以上で第3回新市立病院設計・施工事業者選考委員会を閉会する。

以 上